

# 指 定 研 究 計 画 書

## 1 研究主題名：

他者を意識して、自分の思いや考えを伝え合うことができる児童の育成  
—外国語でのコミュニケーションを楽しむ授業づくりを通して—

## 2 研究主題設定の理由

現代社会は知識基盤社会であり、こうした社会認識は今後も継承されていくものであるが、近年、情報化やグローバル化といった社会変化が、人間の予測を越え加速度的に進展するようになってきている。そんな時代を生き抜いていく子ども達には未知の世界を切り開くたくましさが不可欠であり、主体的に向き合って関わり合い、自ら問いをもち、その解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められる。

外国語・外国語活動は、外国語を用いて尋ね合い、伝え合い、コミュニケーションを楽しむことのできる児童の育成をねらいとしている。また、「話すこと」が[やり取り]と[発表]の2領域に分かれ、より自然な[やり取り]や自分のことをわかりやすく伝えるための[発表]を行う。話しやすさ・伝わりやすさ・わかりやすさ等を他者へ配慮しながら思考・判断・表現することでコミュニケーションの素地(基礎)となる資質・能力を育成することもねらいである。

本校においても、宜野湾市のこれまでの取り組みを活かし、高学年は教科としての外国語を実施、評価し、低中学年は外国語活動を再構築する。英語を使って思いや考えを伝え合う言語活動を通して、自他を大切にするコミュニケーションの素地・基礎を育てていきたい。そのために、相手の発する外国語を注意深く聞いて、相手の思いを一生懸命に理解しようとしたり既習の知識を活用して、相手や他者に自分の思いを何とか伝えようとしたりする体験を通して、言語によるコミュニケーションの難しさや大切さを体得し、人と関わることの楽しさや喜びを感じられるようにしていきたい。

以上のことから外国語・外国語活動のメインテーマを「他者を意識して、自分の思いや考えを伝え合うことができる児童の育成」とし、サブテーマを「外国語でのコミュニケーションを楽しむ授業づくりを通して」とする。

### 3 学年・領域

高学年は教育出版社の教科書『ONE WORLD Smiles』を活用し、教科としての外国語を実施し、中学年は文科省発行の『Let's Try!』を活用する。外国語・外国語活動を「思考・判断・表現」する場面を設定し、尋ね合い伝え合い、コミュニケーションを楽しむこととする。教師自身が学びのモデルとして授業実践し、外国語・外国語活動を楽しんでいきたい。

低学年	中学年	高学年
<p>・あいさつ(自己紹介)・気持ち・天気・曜日・色・形・くだもの・野菜・動物・体の部分・数・伝統行事</p> <p>※絵本を活用した授業</p> <p>※体を動かす活動 (歌・ダンス)</p>		

- ◎自分自身のことを伝え合う活動
- ◎他者を意識したコミュニケーション活動
- ◎主体的に考え表現する場面の設定

### 4 研究主任と組織

- ①外国語担当・・・宜野湾市教育委員会と連携し、外国語・外国語活動の推進を行う
- ②学級担任(HRT)・・・外国語・外国語活動の授業と評価を行う  
(低中学年：文章表記 高学年：評価)
- ③ALT・・・授業でのHRTの補佐を行い、授業で活用する教材づくりを行う

◎HRT：授業をデザイン・学習モデル

◎ALT・HRT：コミュニケーションの相手

◎ALTとHRTの役割の分業と共同

## 5 年間研究計画

	英語授業		宜野湾市特例地域	学校行事
	5年6年	1~4年		
1学期	HRT ALT	HRT ALT	<b>【4月】</b> ALT 研修  <b>【5月】</b> 英語主任研・予算説明会 特例地域研修案提出 ○教育委員会による ALT 授業参観	4/7 1 学期始業式 4/10 入学式  4/28 指定研究説明(zoom)  5/19 ALT 授業参観 7/20 1 学期終業式
2学期			○教育委員会による ALT 授業参観 (未定) ○教育委員会による研修会(仮)  <b>【12月】</b> 英検 Junior(5・6年) 英会話形成テスト(1~4年)	9/1 2 学期始業式 10/4.5 修学旅行(6年) 10/12/13 自然体験学習(5年)  11/12 運動会  12/25 2 学期終業式
3学期			<b>【1月】</b> 特例地域事業報告提出  <b>【2月】</b> 決算提出	1/9 3 学期始業式   2/14 到達度調査 3/21 卒業式 3/22 修了式・離任式

## 6 校長所見

本校は、宜野湾市の英語教育特区構想を活用し、第1学年から英語によるコミュニケーションを楽しむ授業づくりと多文化理解を深める授業に取り組み、英語科教育を実施している。そのため、児童向けの各種調査からも、「英語が好き」「英語を話したい」という肯定的な意見が多く占めている。また、母国語が英語である児童も複数の学年に在籍している。

そこで、今年度も英語科教育について研究を推進し、研究主題に迫りながら、学習指導要領の実現に向けて資質能力の向上に努めていきたい。